

第12回制度・財政検討委員会 (10月24日開催)

令和7年度諮問事項のうち、「療養補助金給付率引き下げ」「控除額増額」「互助5事業見直し」について議論しました。

- ・平成24年度に行われた前回の見直しでは、給付率を8割から7割に引き下げ、自己負担割合に比例した控除を導入した。見直しから3年後の財政状況により給付率の6.5割への引き下げ、控除額の300円への引上げも提案されていたが実施が見送られ、医療制度改正等により財政状況は想定を上回って悪化している。
- ・給付率の引き下げ、控除額引き上げは必須である。控除額については、現行方式にとらわれることなく自己負担割合に比例した控除に定額控除を組み合わせた方法や月毎のすべての保険診療の自己負担分を合算して定額控除する方法なども視野に入れ、試算に基づいて引き続き慎重に検討を進める。
- ・互助5事業については、資産運用の範囲内という制限があることから事業の縮減はやむを得ない。
- ・観劇補助を行っている教育文化事業と人間ドック補助を行っている厚生事業は廃止、会員死亡時の弔慰金、77歳・88歳・99歳時の長寿記念祝金、3年間療養補助金無請求者への無給付者特別給付は廃止せず、減額して存続させるべきである。

制度・財政検討委員会は例年2回開催ですが、重要な制度変更の議論を慎重に行うため、本年度はさらに12月と2月の2回開催し、一定の結論を得る予定です。

新規現職会員 90人 (127口)

新規加入を促すため、構成4団体(愛知県立高等学校長会・愛知県高等学校教職員組合・名古屋市立高等学校長会・名古屋市立高等学校教職員組合)から入会への促進を依頼しました。加入者数はこの数年と同程度ですが、減少しています。

社会経済情勢の変化により先行きが見とおしくなく状況になっていることを踏まえ、引き続き、安心の拠り所となる本会の趣旨を、より一層丁寧に広報することに努めてまいります。

観劇会 129人参加

10月20日(月)に御園座において、御園座吉例顔見世「京鹿子娘二人道成寺」他を開催することができました。300人の募集に対して129人の参加がありました。

新規退職会員 200人 (270口)

本年度は200人(270口)の方が退職会員に移行されました。移行率は71.2%で、前年度より約17ポイント増加しました。本年は61歳で定年を迎える年であり、有資格者は281人でした。定年の段階的引き上げにより、隔年に定年延長される年となります。今後は隔年で移行人数が少なく、退職会員の減少が続くと予想されます。

退職互助会説明会について

本年度は定年延長される年となるため、来春の早期退職を予定されている方と退職互助会に関心のある教職員の方を対象に説明会を名古屋会場で実施しました。来年度は名古屋会場と三河会場の2会場で開催する予定です。

公益目的事業について

高校の運動部と文化部でそれぞれ5校、1校あたり20万円を助成しました。また、特別支援学校の部活動やそれに準ずる自主的な活動で4校、1校あたり5万円を助成しました。

【運動】

高蔵寺(水泳)、阿久比(男子新体操)、豊田北(ボート)、豊橋工科・定(男子バスケットボール)、小坂井(硬式野球)

【文化】

北(美術)、東郷(美術)、江南(吹奏楽)、一宮西(吹奏楽)、東海樟風(コンピュータ)

【特支】

一宮響(運動)、春日井高等特支(音楽)、豊橋特支潮風教室(スポーツ)、刈谷特支(軽スポーツ及び各種スポーツ大会練習)

全教互・陳情署名活動にご協力ありがとうございました

本会が加盟している全国教職員互助団体協議会は、毎年社会保障制度の維持と充実等を求めて国会に向けて陳情署名を行っています。本年度も7月発行の広報109号とともにお届けした「全ての世代が健やかで心豊かに暮らせる社会保障制度の確立と教職員が教育に専念できる環境の整備を求める陳情」署名用紙に795名の方々の署名をいただきました。今後も年金・医療等の社会保障制度の充実を求めて努力していきます。多くの退職会員のみなさまのご協力に感謝するとともに、来年度も是非ご協力をお願いいたします。